

日本における電気鉄道の営業運転の歴史は、1895（明治28）年2月1日に幕を開け、2015年2月に120周年を迎えました。日本で初めての営業運転は、ベルリンで世界で初めて電気鉄道が営業運転を始めてから14年後のことです。電気鉄道は、電気エネルギーを外部から供給して、これを原動力とすることで鉄道車両を運行しています。本号では、これまでの120年にわたる日本の電気鉄道の技術変遷を振り返りながら、今後の展望を紹介しました。

私の小さい頃は、鉄道のことを「汽車」と呼んでいて、踏切には煙を吐くSLの標識が立っていました。今では鉄道と言

えば「電車」が当たり前のようにりましたが、数十年前には、全国の主要幹線の電化工事が盛んに行われていました。現在では、新幹線をはじめとする世界の高速度鉄道も電気鉄道がほとんどで、輸送機関として重要な役割を担っています。先般、中央新幹線の工事実施計画・着工が国土交通省により認可されましたが、この開業により、日本の電気鉄道の歴史に新たな一歩が刻まれることでしょう。

次号の特集は、「高速化・速達化」です。北陸新幹線金沢開業を迎え、高速化や速達化に関わる最近の研究成果について紹介する予定です。どうぞご期待ください。（M. S.）